

## 令和2年度

### 劇場・音楽堂等機能強化推進事業

(劇場・音楽堂等機能強化総合支援事業)

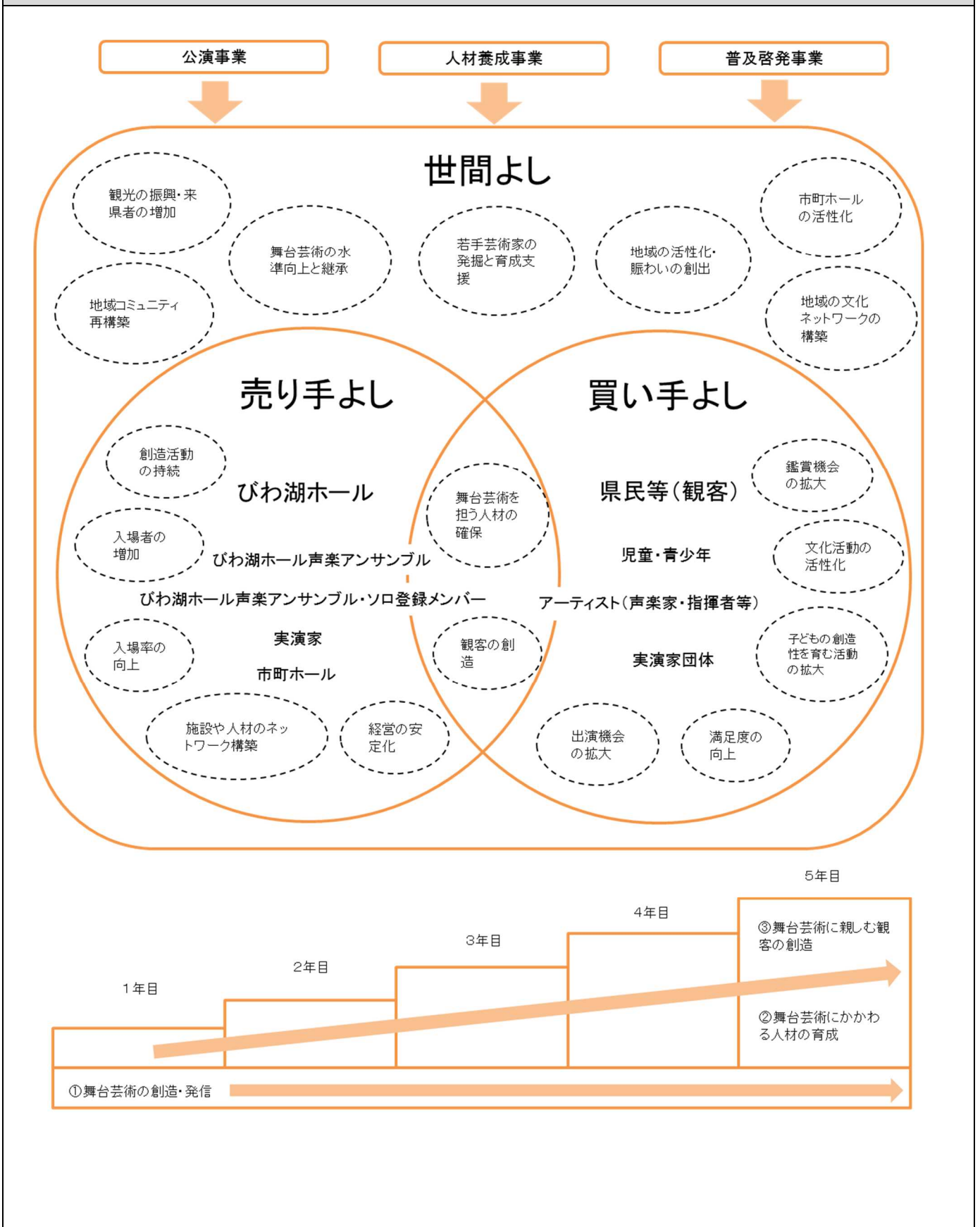
### 自己点検報告書

団 体 名	公益財団法人びわ湖芸術文化財団 滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール	
施 設 名	滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール	
助 成 対 象 活 動 名	びわ湖ホール三方よし創造実践事業	
助 成 期 間	5	(年間)
内 定 額	50,990	(千円)

# 1. 事業概要

## (1) 事業計画の概要

全体図（概念図）



公演事業

人材養成事業

普及啓発事業

2018年度

- ・プロデュースオペラ「ジークフリート」
- ・英国パーミンガム・ロイヤルバレエ
- ・フィリップ・ドゥクフレ/DCA
- ・ジルヴェスター・コンサート2018-2019
- ・スタンウェイ“ピノ”シリーズvol.5

- ・沼尻竜典オペラ指揮者セミナーⅣ
- ・イタリア声楽曲研修Ⅰ
- ・舞台技術研修

- ・地域協働公演オペラ「森は生きている」
- ・びわ湖ホール音楽会へ出かけよう！
- ・子どものための管弦楽教室 第15回
- ・気軽にクラシック
- ・アンサンブルの楽しみ～演奏家のつどい～vol.10
- ・ロビーコンサート
- ・各種講座
- ・ふれあい音楽教室
- ・学校巡回公演
- ・バックステージツアー

2019年度

- ・プロデュースオペラ「神々の黄昏」
- ・海外招聘バレエ・ダンス
- ・ジルヴェスター・コンサート2019-2020
- ・スタンウェイ“ピノ”シリーズvol.6
- ・びわ湖ホール声楽アンサンブル定期公演
- ・びわ湖ホール声楽アンサンブル東京公演
- ・びわ湖ホール四大テノール公演

- ・沼尻竜典オペラ指揮者セミナーⅤ
- ・イタリア声楽曲研修Ⅱ
- ・舞台技術研修

- ・地域協働公演
- ・びわ湖ホール音楽会へ出かけよう！
- ・子どものための管弦楽教室 第16回
- ・気軽にクラシック
- ・アンサンブルの楽しみ～演奏家のつどい～vol.11
- ・ロビーコンサート
- ・各種講座
- ・ふれあい音楽教室
- ・学校巡回公演
- ・バックステージツアー

2020年度

- ・プロデュースオペラ
- ・海外招聘バレエ・ダンス
- ・ジルヴェスター・コンサート2020-2021
- ・スタンウェイ“ピノ”シリーズvol.7
- ・びわ湖ホール声楽アンサンブル定期公演
- ・びわ湖ホール声楽アンサンブル東京公演
- ・びわ湖ホール四大テノール公演

- ・沼尻竜典オペラ指揮者セミナーⅥ
- ・イタリア声楽曲研修Ⅲ
- ・舞台技術研修

- ・地域協働公演
- ・びわ湖ホール音楽会へ出かけよう！
- ・子どものための管弦楽教室 第17回
- ・気軽にクラシック
- ・アンサンブルの楽しみ～演奏家のつどい～vol.12
- ・ロビーコンサート
- ・各種講座
- ・ふれあい音楽教室
- ・学校巡回公演
- ・バックステージツアー

2021年度

- ・プロデュースオペラ
- ・海外招聘バレエ・ダンス
- ・ジルヴェスター・コンサート2021-2022
- ・スタンウェイ“ピノ”シリーズvol.8
- ・びわ湖ホール声楽アンサンブル定期公演
- ・びわ湖ホール声楽アンサンブル東京公演
- ・びわ湖ホール四大テノール公演

- ・沼尻竜典オペラ指揮者セミナーⅦ
- ・フランス歌曲研修Ⅰ
- ・舞台技術研修

- ・地域協働公演
- ・びわ湖ホール音楽会へ出かけよう！
- ・子どものための管弦楽教室 第18回
- ・気軽にクラシック
- ・アンサンブルの楽しみ～演奏家のつどい～vol.13
- ・ロビーコンサート
- ・各種講座
- ・ふれあい音楽教室
- ・学校巡回公演
- ・バックステージツアー

2022年度

- ・プロデュースオペラ
- ・海外招聘バレエ・ダンス
- ・ジルヴェスター・コンサート2022-2023
- ・スタンウェイ“ピノ”シリーズvol.9
- ・びわ湖ホール声楽アンサンブル定期公演
- ・びわ湖ホール声楽アンサンブル東京公演
- ・びわ湖ホール四大テノール公演

- ・沼尻竜典オペラ指揮者セミナーⅧ
- ・フランス歌曲研修Ⅱ
- ・舞台技術研修

- ・地域協働公演
- ・びわ湖ホール音楽会へ出かけよう！
- ・子どものための管弦楽教室 第19回
- ・気軽にクラシック
- ・アンサンブルの楽しみ～演奏家のつどい～vol.14
- ・ロビーコンサート
- ・各種講座
- ・ふれあい音楽教室
- ・学校巡回公演
- ・バックステージツアー

舞台芸術の創造・発信  
(自主制作公演・海外招聘公演の上演)

舞台芸術にかかわる人材育成  
(声楽アンサンブル、オペラ指揮者の育成)

舞台芸術に親しむ観客の創造  
(青少年や児童の入場者の増加)

びわ湖ホール「三方よし」の実現

## (2) 令和2年度実施事業一覧

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	びわ湖ホール プロデュースオペラ ワーグナー作曲 歌劇『ローエングリン』	令和3年3月6日、7日	演目：ワーグナー作曲『ローエングリン』、指揮：沼尻竜典、ステージング：粟國淳、新型コロナウイルスの影響でセミ・ステージ形式に変更。	目標値	2,672
		びわ湖ホール大ホール		実績値	2,243
2	ジルヴェスター・コンサート2020-2021	令和2年12月31日	指揮：阪哲朗、司会：桂米團治、ヴァイオリン：服部百音、管弦楽：大阪交響楽団、構成・台本：中村敬一	目標値	1,498
		びわ湖ホール大ホール		実績値	1,125
3	パレルモ・マッシモ劇場 ヴェルディ作曲 歌劇『ナブッコ』	令和2年6月27日 (中止)※	新型コロナウイルス感染症の影響で公演を中止した。	目標値	1,340
		びわ湖ホール大ホール		実績値	—※
4	ポリショイ・バレエ「スパルタクス」	令和2年11月27日 (中止)※	新型コロナウイルス感染症の影響で公演を中止した。	目標値	1,345
		びわ湖ホール大ホール		実績値	—※
5	びわ湖ホール声楽アンサンブル定期公演(第71回、第72回)	令和2年9月12日、 令和3年3月27日	【71回】指揮：大川修司、演目：ロッシーニ アヴェ・マリアほか【72回】指揮：沼尻竜典、演目：小林秀雄 落葉松ほか	目標値	527
		びわ湖ホール大ホール		実績値	809
6	びわ湖ホール声楽アンサンブル 日本の美しい歌	令和2年8月10日	演目：琵琶湖周航の歌、昭和・平成のヒットソング、指揮：本山秀毅、独唱：びわ湖ホール声楽アンサンブル、管弦楽：京都フィルハーモニー室内合奏団	目標値	829
		びわ湖ホール大ホール		実績値	742
7	オペラ指揮者セミナーVI～『ヘンゼルとグレーテル』指揮法～	令和2年8月4日、5日、6日	講師：沼尻竜典、管弦楽：大阪交響楽団、ソリスト：森季子ほか、合唱：びわ湖ホール声楽アンサンブル	目標値	323
		びわ湖ホール大ホール		実績値	367
8	イタリア声楽曲研修Ⅲ	令和2年8月30日、31日 (中止)※	新型コロナウイルス感染症の影響で公演を中止した。	目標値	221
		びわ湖ホール小ホール		実績値	—※
9	令和2年度 びわ湖ホール舞台技術研修～人材育成講座～	令和2年5月から令和3年3月	演出家：ごまのはえ、振付：山田レイ、演技指導：劇団ニットキャップシアター	目標値	300・100
		びわ湖ホールほか		実績値	466・137
10	地域協働公演 サリヴァン作曲 オペラ『ミカド』	令和2年10月から11月 公演予定(中止)※	新型コロナウイルス感染症の影響で公演を中止した。	目標値	2,400
		滋賀県立文化産業交流会館ほか3会場		実績値	—※
11	びわ湖ホール 音楽会へ出かけよう！(ホールの子事業)	令和2年6月9日、10日、11日、15日、16日、17日(中止)	新型コロナウイルス感染症の影響で公演を中止した。	目標値	11,000
		びわ湖ホール大ホール		実績値	—※
12	子どものための管弦楽教室 第17回	令和3年3月21日	曲目：ビゼー「カルメン」組曲よりほか、指揮：藤岡幸夫、管弦楽：関西フィルハーモニー管弦楽団、司会：空井仁美	目標値	944
		びわ湖ホール大ホール		実績値	704
13	気軽にクラシック	令和2年9月6日、28日、令和3年2月20日、3月14日	出演者：田中正也、上村文乃、沼尻竜典、小谷口直子、迎肇聡、關口康祐	目標値	1,084
		びわ湖ホール小ホール		実績値	924

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
14	円熟を聴く	令和2年8月29日 (中止)	新型コロナウイルス感染症の影響で公演を中止した。	目標値	542
		びわ湖ホール小ホール		実績値	—※
15	アンサンブルの楽しみ～演奏家のつどい～vo. 12	令和2年9月21日	司会・ゲストプレイヤー：Adam、出演：公募で選ばれた8組	目標値	271
		びわ湖ホール小ホール		実績値	168
16	びわ湖ホールロビーコンサート	年度通じて (中止)	新型コロナウイルス感染症の影響で公演を中止した。	目標値	2,700
		びわ湖ホールメインロビー		実績値	—※
17	ホスピタルコンサート	令和2年9月16日、24日 ほか2公演中止	出演者：Cattleya Saxophone Quartet、本田千鈴、白石尚美、西川静、亀井友恵、上田明美	目標値	400
		養護老人ホームきぬがさほか		実績値	221※
18	各種講座（オペラ講座・ワークショップ等）	令和2年11月29日ほか7回	講師：東条碩夫、岡田安樹浩、伊東史明、藤野一夫、出演：沼尻竜典、岡田暁生、粟國淳、菅原多敢弘	目標値	977
		びわ湖ホールリハーサル室ほか		実績値	870
19	びわ湖ホール声楽アンサンブル学校巡回公演	令和2年5月8日、11日、12日、14日、15日 (中止)	新型コロナウイルス感染症の影響で公演を中止した。	目標値	3,000
		滋賀県内小中学校		実績値	—※
20	ふれあい音楽教室	令和2年10月から11月	出演：びわ湖ホール声楽アンサンブル	目標値	1,000
		滋賀県内小中学校		実績値	783※
21	バックステージツアー「びわ湖ホールまるっとステージツアー」	令和2年11月23日、12月13日	企画：びわ湖ホール事業部	目標値	180
		びわ湖ホール大ホール		実績値	143

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

## 2. 自己評価

### (1) 妥当性

#### 自己評価

事業計画に必要な構成要素が有機的に連関し、当初の予定通りに事業が進められているか。

当財団は、滋賀県文化振興基本方針に掲げる基本目標「文化芸術の力で心豊かな活力ある滋賀を創る」を実現するため、当財団中期経営計画において、(1) 優れた舞台芸術の創造と県内外への発信、(2) 次世代を担う子どもたちの創造性を育む取組の充実、(3) 若手芸術家の発掘と育成・支援、(4) 県民の主体的な文化活動の支援、(5) 文化芸術の力を活かした地域活性化の5つを基本方針として、複合的に事業を展開しています。これらを踏まえ「びわ湖ホール三方よし創造実践事業」では、①舞台芸術の創造・発信、②舞台芸術にかかわる人材育成、③舞台芸術に親しむ観客の創造をアウトカムとして、2020年度は、本助成対象事業として21事業を計画していましたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から8事業をやむなく中止としました。しかしながら、実施した事業における入場者・参加者は86.6%であり、コロナ禍でありながらも、実施方法を工夫することにより文化芸術の火を絶やさぬように事業実施に努めたところです。

①舞台芸術の創造・発信では、オペラを自主制作し、県内外に舞台芸術を創造発信するとともに、その水準向上および継承、ノウハウの蓄積を図りました。一方で、国際的水準のバレエは新型コロナの影響により中止をしました。②舞台芸術にかかわる人材育成では、「オペラ指揮者セミナー」を実施し、若手実演家の育成を図り、日本のオペラ界を支える人材の育成に貢献しました。なお例年は、人材育成事業として「イタリア声楽曲研修」を実施しておりますが、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から令和2年度は事業を中止しております。③舞台芸術に親しむ観客の創造では、感染症対策を講じながらアウトリーチ事業し、「ふれあい音楽教室」を県内の小学校および、新型コロナウイルス感染症拡大防止のために中止した「学校巡回公演」であった対象の中学校でも実施し、将来に向け舞台芸術に親しむ観客の創造につなげました。

助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。

びわ湖ホールは年間に複数本のオペラを自主制作する国内でも数少ない劇場の一つです。優れた舞台芸術を次の世代に継承していくためには、こうした自主制作を継続していき、舞台制作技術の水準の維持・向上およびノウハウの蓄積をしていくことが必要不可欠ですが、そのための制作資金の確保と舞台芸術にかかわる人材の育成が課題となっています。びわ湖ホールでは入場料や寄付金、助成金、県からの指定管理料などにより制作資金を確保するとともに、実演家や舞台スタッフの育成を図っています。その中でも特徴的な取組としてホール専属の声楽家集団「びわ湖ホール声楽アンサンブル」の運営があげられます。全国から厳しいオーディションを経て採用されたメンバーが最長5年間の在籍中にホールでの出演等を通じて経験を積み、ソリストとして活躍できるよう若手声楽家の育成を図っています。また、人材が不足しがちなオペラ指揮者を育成するため、プロのオーケストラやオペラ歌手と音楽を一緒に作り上げる手法を学ぶ「オペラ指揮者セミナー」を開催しています。さらに、舞台技術研修では、舞台の進行管理、舞台音響、映像デザインなど、実際の舞台作品制作の実演を通じて、舞台技術スタッフ、ならびに連携している大学の学生らの人材育成を図っています。加えて、普及事業にも力を入れており、特に小学生等をホールに招待して舞台芸術を鑑賞する「びわ湖ホール音楽会へ出かけよう！(ホールの子事業)」(令和2年度においては新型コロナウイルス感染拡大防止の観点からやむなく中止)では、特別支援学校をはじめ心身に障がいがあったり、いじめ等で学校へ通うことが出来ない子どもたち、学校教育の枠組みの外にある日系ブラジル人学校等にも広く参加を呼びかけています。また、ホールに来られない学校へ赴く「ふれあい音楽教室」で、感染症対策を施した内容で、子どもたちに舞台芸術に触れられる機会を提供しました。これらは、社会包摂としても大変意義のある活動であると考えています。

## (2) 有効性

### 自己評価

目標が達成し、アウトカムの発現は可能か。

「①舞台芸術の創造・発信」としては、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から海外招聘公演をはじめ、助成対象のうち8事業をやむなく中止または延期をせざるを得ない状況でありましたが、3月に上演しました新制作のプロデュースオペラ「ローエン格林」では、セミ・ステージ形式でオール日本人キャストに変更し、感染症対策を徹底した中で公演実施をしたほか、「ジルヴェスター・コンサート」を日中の時間帯に開催することで実施方法を工夫し、自主事業36公演を上演しました。こうしたコロナ禍における舞台芸術の創造と発信の取組は、舞台芸術の継承とともに、オンライン配信など新たな発信手段と合わせ、新たな客層の獲得にもつながりました。

「②舞台技術にかかわる人材育成」としては、例年「オペラ指揮者セミナー」で若手指揮者を、「イタリア声楽曲研修」で専属声楽アンサンブルメンバーの育成を図っています。イタリア声楽曲研修は新型コロナウイルスの影響から中止を余儀なくされてしまいましたが、研修以外に外部依頼公演などを通じて、若手声楽家の舞台に立つ経験を積ませることが出来ました。また、「舞台技術研修」では、大学等と連携し実際の舞台作品製作の実演を通じて、舞台技術スタッフおよび次世代の人材の育成を図りました。

「③舞台芸術に親しむ観客の創造」としては、昨年度のプロデュースオペラ「神々の黄昏」のライブ配信以降、オンライン配信に力を入れ、年度前半にオンライン配信にかかる映像機器やネット回線工事を行い配信環境を整えたうえで、「ジルヴェスター・コンサート」や「ローエン格林」では、有料でのオンライン配信を実施し、感染症等の様々な事情により劇場に足を運ぶことのできないお客様や、舞台芸術に普段親しみのないお客様に対し、近い将来、劇場に足を運んでいただけるよう低廉な料金で配信を行い、新規観客の獲得に注力しました。また、滋賀県内の子どもたちに舞台芸術に親しみを持ってもらうことを目的とした事業のうち、「音楽会へ出かけよう！（ホールの子事業）」や「学校巡回公演」は、感染症の影響からやむを得ず中止としましたが、「ふれあい音楽教室」では、当初実施予定していた学校以外に学校巡回公演が中止となった一部学校にも赴き、音楽の授業を通じて、プロの本物の音楽の素晴らしさに触れられる機会を提供することが出来ました。このほかにも、低廉なチケット料金である「気軽にクラシック」などの実施や、青少年向けの割引料金の設定により、新しく劇場に足を運んでいただけるお客様の開拓に努めました。公演を中止したこともあり、入場者数は前年度を下回りましたが、引き続き青少年を対象とした企画を実施していくことで目標の達成を目指します。

助成活動における入場者数および入場率については、公演の中止等を受けて目標を下回っていますが、実施した公演のアンケートにおける「良かった」以上の割合は前年度よりも0.5ポイント上昇し98%であり、コロナ禍で舞台芸術公演を心待ちにしているお客様からの感謝や応援の声を多数いただくなど、お客様からの高い評価とともに、公演継続への期待が大きいことが伺えます。

自主公演における青少年(25歳未満)の入場者数

(単位:人)

	2016年度	2018年度	2019年度	2020年度		2021年度	2022年度
	実績	実績	実績	目標	実績	目標	目標
自主公演における青少年の入場者数	4,910	3,233	1,951	5,110	1,120	5,160	5,210

自主公演アンケートにおける「良かった」割合

	2016年度	2018年度	2019年度	2020年度		2021年度	2022年度
	実績	実績	実績	目標	実績	目標	目標
自主公演アンケートにおける「良かった」割合	96.9%	96.8%	97.5%	97.0%	98.0%	97.0%	97.0%

### (3) 効率性

#### 自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んでいるか。

アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んでいるか。

令和2年度は5年間の事業計画の3年目として、前2年間で踏まえて、より効率的な事業の執行に努めました。しかしながら、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、当初予定していました21事業のうち8事業を中止することとなりました。助成対象経費全体の要望時と決算時の比較（決算時／要望時）では27.92%（72.08%減）となり新型コロナウイルス感染症による影響は非常に大きいものであります。

こうした状況もあって事業期間を通じて実施を計画しているプロデュースオペラやジルヴェスター・コンサートでは、コロナ禍の上演方法を模索した結果、プロデュースオペラについては「セミ・ステージ形式」で、ジルヴェスター・コンサートでは「日中の開催」に変更して上演し、開館以来20年かけて蓄積したノウハウを基礎としつつも、創意工夫を凝らし継続して公演を実施することが出来ました。これにより、両公演ともに出演者、スタッフ、お客様の誰一人感染者を出すことなく上演することが出来ました。こうしたコロナ禍での公演ノウハウの蓄積によって、舞台芸術の持続性を確保することが出来ます。加えて、オンライン配信を実施し、インターネットを活用した新たな取組にも挑戦することができ、舞台芸術に親しむ観客の創造を図ることが出来たと考えています。これらの取組にかかる技術・ノウハウを蓄積し、次代に継承していきたいと考えています。

事業費の積算においては、オペラが他の分野の事業費と比べて大きくなっておりませんが、この要因としては、作品の上演に高度な演奏技術と演技力が要求されることや、長時間に及ぶ稽古が必要であり、その間、演奏家や多くの舞台スタッフが拘束されることなどが挙げられます。しかしながら、令和2年度はコロナ禍であることを考慮し稽古・本番時の密を回避するために、舞台装置を制作し演出を凝らした本格的なオペラを控え「セミ・ステージ形式」に変更して大幅に稽古回数を減らし、ならびに「オール日本人キャスト」での上演にすることにより、事業費を当初要望額の2分の1以下に抑えることが出来ました。また、ジルヴェスター・コンサートも「日中の開催」に変更したことにより当初要望額の約2分の1程度に抑えることが出来ました。これは感染症対策を考慮した結果の苦肉の策であり通常時とは状況が異なるものの、多くの工夫を凝らしたことからこそ、公演後のアンケート結果では「良かった」以上の回答がローエングリンでは全回答数の96%を占め、また、ジルヴェスター・コンサートでは100%となっており、来場いただいたお客様からは高評価を頂けたものとして捉えています。新型コロナウイルス感染症の影響は継続しており、実演舞台芸術を取り巻く環境は大変厳しい状況ではありますが、実演舞台技術の大きな転機ととらえて、より効率的・効果的な事業の実施に取り組みます。また併せて、持続的な組織体制づくりとともに、劇場間のネットワークを活かし海外招聘公演を複数館で連携して実施することや公演を共同で制作することによって、1館当たりの経費の負担を減らすなどの取組を行ってまいります。



## (4) 創造性

### 自己評価

事業計画の内容が、独創性、新規性、先導性等に優れている（と認められる）か。

びわ湖ホールでは、「最高峰の劇場を目指していく」、「親しみやすい劇場を目指していく」の2つの方向性を踏まえ、自主制作による創造活動を軸とし、県民をはじめ多くの方に国際水準の舞台芸術を最高の鑑賞条件で提供するとともに、誰もが舞台芸術を楽しみ味わうことができ、繰り返し来場いただけることを目指して、多彩なジャンルにわたって質の高い特色ある事業を実施しています。

自主事業公演については、世界の第一線で活躍する指揮者である沼尻竜典を芸術監督として迎え、プロデュースオペラの公演について企画を行い、自らが講師を務める「オペラ指揮者セミナー」などに関して、芸術面を自らプロデュースすることでオリジナリティと高い水準が確保された公演を実施しました。

また、ホールとしては昨年3月に実施したプロデュースオペラ「神々の黄昏」の無観客かつ無料ライブ配信については、「コロナ時代の文化イベントのありかたに一石を投じた。」として評価をいただき、第68回菊池寛賞を公共ホールの音楽として初めて受賞することができました。こうした活動の背景には、びわ湖ホールが第一線で活躍する沼尻芸術監督とともに「最高峰の劇場」、「親しみやすい劇場」を継続して目指してきたからこそと考えています。

さらに、当ホール専属の「びわ湖ホール声楽アンサンブル」は、満30歳以下の若手歌手を対象に全国から厳しいオーディションを経て選ばれたプロの声楽家集団であり、メンバーは最長5年間の在籍中に、第一線で活躍する指揮者、演出家、演奏家の指導のもと、事業計画に掲げる自主制作オペラや定期公演への出演、県内外の学校へのアウトリーチ事業等、数多くの本番で経験を積むことで、人材の育成機関にもなっており、卒団後も「びわ湖ホール声楽アンサンブル・ソロ登録メンバー」として、それぞれが声楽家として国内外で活躍しています。2021年度現在でソロ登録メンバーは64名となり、びわ湖ホールの自主公演のほか、地域の様々な催しや学校、企業、福祉施設の依頼公演へ出演するなど、びわ湖ホールの創造活動の核となっています。

びわ湖ホール自主制作オペラの事業数

(単位:作品)

	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度		2021年度	2022年度
	実績	実績	実績	目標	実績	目標	目標
プロデュースオペラ	1	1	1	1	1	1	1
オペラセレクション	1	1	1	1	0	1	1
オペラへの招待	2	2	1	2	1	2	2
計	4	4	3	4	2	4	4

びわ湖ホール声楽アンサンブル卒団者数

(単位:公演)

	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度		2021年度	2022年度
	実績	実績	実績	目標	実績	目標	目標
声楽アンサンブル卒団者数	1	9	1	2	3	3	3
累計	51	60	61	63	64	67	70

オペラ指揮者セミナーの受講生数

(単位:人)

	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度		2021年度	2022年度
	実績	実績	実績	目標	実績	目標	目標
指揮者セミナー受講生数	5	4	5	5	5	5	5

びわ湖ホール声楽アンサンブル依頼公演数

(単位:公演)

	2016年度	2018年度	2019年度	2020年度		2021年度	2022年度
	実績	実績	実績	目標	実績	目標	目標
声楽アンサンブル依頼公演数	19	36	28	23	16	24	25

## 自己評価

事業の実施によって、当該劇場・音楽堂等の国内外での評価の向上につながっている（と認められる）か。

5か年計画では、びわ湖ホール「三方よし」の実現を目指し、3つの目標を持ち事業に取り組んでいるところで、1つ目が、「舞台芸術の創造・発信」です。最も力を入れているプロデュースオペラ『ローエングリン』では、昨年度までの4年間で完結したワーグナーの大作<ニーベルングの指環>全四作、通称<びわ湖リング>の次に選ばれた作品として注目を浴びました。しかしながら、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から当初の上演方法ではなく、「セミ・ステージ形式」に変更しての上演としたため、びわ湖ホールオペラのファンであるお客様の来場数が大幅に減少する可能性がありましたが、コロナ禍にあっても入場者数は70%以上あり、来場者アンケートにおいて「よかった」以上の回答を全体の96%からいただきました。満足度が高い要因の一つとして、公演に先立ち作品の背景や歴史を学ぶ機会となるプレトークやワークショップなどの講座を実施し、初めての方でも抵抗なく公演を楽しんでいただけるような取組をしていることが考えられます。さらに、昨年度のオペラ「神々の黄昏」でライブ配信を行ったことを皮切りに、以降オンライン配信にも注力し、劇場に足を運ぶことのできないお客様やネット世代の若者へのアプローチも行うことが出来たと考えます。

2つ目の「舞台芸術を支える人材の育成」として、「オペラ指揮者セミナー」は、令和2年度で6回目の実施となりました。オペラ指揮者に特化したセミナーは、世界的にも珍しく国内外からも注目度の高いセミナーとなっており、幅広く受講生を募り、経験豊かなプロのオーケストラ、びわ湖ホール声楽アンサンブルを前に指揮をすることで、非常にレベルの高いものとなっています。この貴重な機会を受講生に提供し、その様子を一般公開することによって日本のオペラ界を支える人材の育成を図りました。また、「びわ湖ホール舞台技術研修」では、公演参加型の舞台技術研修を行い、連携大学の学生が授業の一環として約1年をかけて国内有数のびわ湖ホールの舞台機構を活かしながら、びわ湖ホールのスタッフとともに実際に作品の制作を行い、成果発表公演を最終日に行うことで、舞台芸術を担う人材の育成を図りました。なお、びわ湖ホールの創造活動の核として、びわ湖ホール声楽アンサンブルを各事業に登用するとともに多くの舞台・事業の経験を重ねることによって、若手声楽家の育成につながっています。

3つ目の「舞台芸術に親しむ観客の創造」では、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため地域協働公演「ミカド」、「びわ湖ホール音楽会へ出かけよう！（ホールの子事業）」、「学校巡回公演」といった地域住民や県内小学校等の子どもたちが参加や鑑賞という形で舞台芸術に親しむ事業が中止となり、また、ジルヴェスター・コンサートの一般合唱やファンファーレ隊の一般公募の中止により、県民の舞台芸術への参加機会が失われたりと、新しい観客の創造活動につながる事業に限られる中、「ふれあい音楽教室」では感染症対策を十分に施したうえで事業を実施することができ、子どもたちにプロの歌声に触れられる体験を提供することが出来ました。また、ロビーコンサートについては、お客様を入れた形での公演を実施することはできなかったものの、大ホールホワイエで撮影した動画をYouTubeに公開したことや、前述のオンライン配信を実施したことで広く事業展開することができ、新たな観客の創造に、取り組むことが出来たものとして考えています。

## (5) 持続性

### 自己評価

事業計画を通じて組織活動が持続的に発展する（と認められる）か。

持続的なアウトカムの発現・定着が期待できるか。

劇場間のネットワークを活かして、共同で公演の制作を行うことによって、事業費の軽減やノウハウの共有を行っています。2018年度より新国立劇場と公演連携、人材交流・育成を目的に連携協定を締結しオペラ公演や人材交流をおこなっています。

また、時代の舞台芸術を担う人材を育成するために、ホール内での技術継承とともに、滋賀や京都の大学も参加する舞台芸術研修を実施し、滋賀県公立文化施設協議会におけるスタッフセミナーの講師を務めるなど、将来ホールの運営を担う人材の育成に力を入れました。

さらに、県南部のびわ湖ホール、北部の文化産業交流会館の2つの施設の運営を担うびわ湖芸術文化財団では、県全体の文化芸術の振興のために、財団内の人事異動による組織の活性化や新規職員の積極的な採用により、将来に向けて事業継続が可能となる組織体制の強化を行いました。

また、県の指定管理を受け持続的に事業を推進するとともに、国や民間からの助成金の獲得に努めました。令和元年度に新設した法人本部営業部では、びわ湖ホール友の会やびわ湖ホール舞台芸術基金、オフィシャルスポンサー制度等、企業協賛など、新たな財源の確保も積極的に行いました。びわ湖ホール友の会の一般会員やサポート会員は、コロナ禍における講演の中止の影響もあり、令和2年度末現在3,314人で、対前年比448人の減となっておりますが、最も会費が高額な特別会員については直近5年で最も多い128人となっており、コロナ禍で苦しい劇場を応援しようという支援者が増えております。これからも積極的な舞台芸術の振興に加えて友の会入会特典として、ゲネプロ見学会や、出演者との交流会などの実施によって新たな会員の確保・開拓に努めていきます。

びわ湖ホール友の会会員数

(単位:人)

	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度		2021年度	2022年度
	実績	実績	実績	目標	実績	目標	目標
一般会員	3021	3174	3288	3250	2849	3300	3350
サポート会員	281	308	355	350	337	370	390
特別会員	114	119	119	130	128	135	140